

令和元年度 第4回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日 時 令和2年2月20日（木） 14時00分～16時25分
- 2 場 所 市役所本庁舎 5階 第5会議室
- 3 出席者 委員10名
井川、池田、川淵、遠藤、小島、高尾、田中（寛）、豊田、中林、中川
（委員、敬称略）
（欠席3名）
- 4 傍聴人 なし
- 5 次 第
- 1 開会
- 2 議題
（1）第8次大和市総合計画の最終的な総括について
- 3 その他
- 6 会議資料
- | | |
|------|---|
| 資料 1 | : 第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証(基本目標3、4、5) |
| 資料 2 | : 第8次大和市総合計画の最終的な総括について(提言)（案） |

【議 事】

- 会長 : 議題（1）第8次大和市総合計画の最終的な総括について、前回の第3回会議の議題としたまちの健康領域の評価内容について、説明を求める。
- 事務局 : **【資料1について説明】**
- 委員 : 市民意識調査で測定した成果を計る主な指標のうち、基本目標3の「地域で広域避難場所が知られていると思う市民の割合」や「以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う市民の割合」は、計画最終年度の数値が目標を達成し、到達度も高い値を示している。しかし統計学的には、H28年度に実施した前回調査との比較で、上昇したことに対する有意な差は認められない。反対に、基本目標4の「大和市には緑や公園が多いと思う市民の割合」は、到達度としてはそれほど高くないように見えるが、前回調査との比較で、上昇に有意性が認められる。こうした統計分析の結果も、せっかくなので総合計画審議会のコメントの一つの要素として加えていってもよいと思うがどうか。
- 事務局 : 市民意識調査の結果については、前回調査との比較という観点からはご指摘のとおりであるが、今回行っていただいている検証は、後期基本計画の総括であるため、コメントの要素としては、長期的な視点からも評価いただけるとありがたいと考える。
- 会長 : 今回の市民意識調査結果は、ある意味、健康都市やまと総合計画の起点となるものである。今後行う健康都市やまと総合計画の評価の中でも、検証の材料にしていくことが望まれる。
成果を計る指標の扱いを考える時、定量的な指標は設定しやすいが単純にストックが増えることで右肩上がりになりやすい面もある。そうした指標の数値の上昇が、質的に望ましい結果を示しているのか、ということ一概にそうとは言えない。かつての成長社会から、成熟社会へと向かお

- うとしている中であって、市の取り組みが、真に必要とされているものにフィットしているかどうか、といった面が今後は問われてくるだろう。
- 委員 : 基本目標 4 の「1990 年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量の割合」は、どのような考えに基づいて目標値を設定しているか。
- 事務局 : 「1990 年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量の割合」の目標値は、基本的に国の目標値設定の考え方に準じて設定しているものである。排出量の計算方法については、8 次総の指標設定当時、国の統一的なマニュアルがなかったため、市独自の計算方法を用いており、最終年度の実績も目標値を下回っているものの、その後を示された国のマニュアルで計算すると、実質的には目標値を上回る結果となっている。
- 委員 : 大和市は市域が狭く、人口密度も高い都市である。これに対し、基本目標 4 の「大和市には緑や公園が多いと思う市民の割合」が多くなっていることや、基本目標 5 に関わって区画整理などの都市整備も進んできていることを踏まえて、今後どの程度の人口規模が適正と捉えているか。
- 事務局 : 過去の総合計画を見ると、目標とする人口規模を設定し、計画を策定してきたという時代もあった。しかしながら、健康都市やまと総合計画の期間内であるこの先 10 年においては、人口 24 万人程度をピークとして、およそ大幅な増減は見込まれていない。現在ある公共施設やインフラは、この規模の人口の生活を支えるよう整備されており、今後も、同程度の人口が当面維持されていくことを前提とした考え方を取っている。
- 委員 : 近所でも土地区画整理が行われ、緑地が宅地へと変わった。こうしたことを目にしていて、どこかで適正な人口規模を考えていかなければならない時期がやってくると思う。
- 事務局 : 参考までに、かなり前の話になるが、本市の市街化区域面積を考慮すると、およそ 25 万人程度が人口の上限ではないか、という議論があったように記憶している。ただし、こうした話は、建物が高層か低層かなど、他の要因でも大きく変わってくる面もある。
- 委員 : 元は緑地だった場所で市街化が進む一方で、ふるさと軸上では、道路形態が昔の農村地帯であった時のまま残されているように感じる。ここを整備していくことは容易ではないと思うが、逆に言うと市内にはこのような場所しか基盤整備を行う場所が残っていないのではないかと思う。
- 事務局 : 本市においては、いまだ人口の微増が続いている中であって、市街化が進む裏側で緑地が減少しているといったご意見は、行政としても真摯に受け止めなければならない課題として捉えている。
- 会長 : 基本目標 5 に関わって、災害時に脆弱な面を見せる密集市街地は、ふるさと軸上や、やまと軸の一部に存在しており、一見、市街化が進んでいるように見える場所もあるが、十分な基盤整備は進んでいない。こうしたところの整備を進めていくためには、やはり 2022 年に期限を迎える多くの生産緑地の動向が鍵になってくると考えている。全体的に指標の結果だけを見れば、ストックが増えて全てが目標値に近づいているものの、一方で課題は残っているということを我々としても言っていかなければ

ればならないと考え、総合計画審議会のコメントの中で強調した記述にしている。

空家への対策として、地方では流通する市場が乏しいため、空家バンクを活用して、適正な管理や安価な住まいの提供を行う仕組みができている例もある。基本目標5のコメント欄には、「行政が必要なインフラを整える」とあるが、こうした仕組みを含んだインフラと理解して良いか。

事務局 : ここでは、道路整備という意味合いのインフラを想定しており、現時点では空家バンクまでを含んだ考えではない。しかしながら、今年度、街づくり計画部では空家実態調査を実施していることから、現状などの分析を行う中で、今後本市においても、空家バンクの必要性を検討していく可能性はあるかもしれない。

会長 : そういう意味では、ハード面、ソフト面をあわせたインフラ整備と表現してはどうか。

事務局 : 承知した。

委員 : 「ヤマト SOS 支援アプリ」や「やまと PS メール」の普及については、高齢の方など、IT 難民と言われる方々にも配慮して進めていてもらいたい。また、空家については、近所に、数十年にわたって人が住んでいない家があり、最近取り壊しになった例を目にしているが、一方でしっかりとメンテナンスがされている空家もあり、実情の把握が重要であると思う。

会長 : それでは続いて、第8次大和市総合計画の最終的な総括（提言）について、説明を求める。

事務局 : **【資料2について説明】**

会長 : 資料2は、過去の施策評価や、今年度、審議会で議論してきた内容を踏まえて、最終的に市長へ行う提言の案としてまとめているものである。改めて聞くが、人の健康に関わって、「健康であることを大げさに捉えすぎないよう市民の意識を和らげながら」との記述はどういった趣旨の意見だったか。

事務局 : 年を重ねると身体的な機能が衰える部分が出てくることはある程度仕方ないが、それをもって健康ではないと判断するかどうかは個人それぞれの基準がある。高齢の方の数が増えている中であっては、そうした方々に対して、健康であるということを少し緩く捉えても良いのではないかと発信し、健康づくりを身近なものとしていくことも重要である、との趣旨で過去にいただいたご意見であった。

会長 : そういった趣旨であるならば、『高齢の方は年々増えている中で、一人ひとりの健康へのハードルは高くなっている可能性があり、「自ら健康づくりに取り組んでいる人の割合」は横ばいとなっているので、行政は、それぞれの健康観を大切にしながら、市民が前向きに健康づくりに取り組めるよう努めてほしい』というような表現が適切だと思う。また、今回の提言を健康都市やまと総合計画の推進につなげていくという意味では、結びとして、健康の創造は着実に「進んだ」とするより、「進んでいる」と進行形で表現した方がよい。

事務局 : ご指摘のとおり、反映させていただく。

委員 : 「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言は、大変好感の持てる

- 内容であると個人的に思う。提言（案）の中でその取り組みを取り上げた直後に「高齢の方」と表現することに違和感があるがどうか。
- 事務局 : 「年齢を重ねた方」などが適当であるため、修正させていただく。
- 委員 : 期間を表す単語が重複している箇所があるので、修正願いたい。
- 事務局 : ご指摘のとおり、反映させていただく。
- 会長 : 文章の意味合いが変わる箇所では改行を行うなど、適切な体裁を整えてほしい。
- 事務局 : ご指摘のとおり、反映させていただく。
- 委員 : 自転車通行空間の整備に関して、自転車が専用レーンを走行していない光景を目にすることがある。実際の利用は進んでいるのか。
- 事務局 : 自転車通行空間については、現時点で、整備可能な市道の全てに自転車レーンやナビマークの設置が完了している。行政としても自転車通行空間を整備したからそれで満足ということではなく、依然として自転車が歩道を走行している事例も捉えており、新たに歩道への路面標示の整備などにも取り組んでいるところである。
- 会長 : 自転車レーンを色付けしている塗料が経年劣化して色がなくなると、自転車だけでなく、自動車を運転する側も気を付けようとする意識が薄れてくる。自動車が自転車レーンに侵入すると、運転手が振動を感知できるような段差舗装を整備すると注意が向きやすいただろう。また、自転車も自動車同様、左側通行なので、進行方向がわかる表示をもっと増やしてもよいと思う。
- 事務局 : ここで事務局から提案させていただく。本日、いただいたご意見を反映し、後日、総合計画審議会を代表して会長から市長へ提言を行う運びとさせていただきたいと考えるが、如何か。
- 委員 : 異議なし
- 事務局 : 市長への提言が行われた後、他の委員には、提言書の写し等を送付させていただく。
- 会長 : 本日の議題は以上となる。その他、事務局から報告はあるか。
- 事務局 : **【市民意識調査結果概要について報告】**
- 会長 : 年齢別に回収率を見ると、若い世代ほど低い傾向が表れている。調査の結果を実際の市の年齢構成にあわせて補正することで、より正確な結果を検証するという手法もある。
- また、定量的な指標では、質に関する評価は難しいため、こうした市民意識調査結果をどう活用していくかが重要である。過去のデータを整理して比較することなども大事にしながら、市民意識の統計学的な有意差などのエビデンスに基づいて取り組みの質の評価を行い、施策の展開につなげていくことは意義深いことである。
- 委員 : 長い間、大和市に住んでいて、各種健診の充実や大和駅周辺の防犯活動の展開、コミュニティバスの利便性の向上、文化創造拠点シリウスの完成など、生活の中で感じている変化が今回の提言（案）に盛り込まれ、また、市民意識調査結果にも表れており、まさに一般市民の感覚が反映されているという印象を持った。
- 委員 : 横浜市に居住する300の子育て世帯を対象とした、とあるアンケートでは、約7割の方が「子育てがしんどい」と答えているという例を聞き

及んでいる。理由は、経済的な面や働き方の面など様々であると思うが、大和市では市民意識調査の結果として、子育てに関する相談の場が充実していることや、経済的に不安なく子育てができていていると感じる市民の割合が増えている。これは自治体毎に施策の違いがある中で、大和市が子育て支援に力を入れてきたことの表れであり、望ましい結果だと感じた。

委員 : 市民意識調査で得られるデータは貴重である。例えば、重要度が高いと感じているが、満足度が低い施策などは市として一定の打ち手が必要である。一方で、そういった施策について、個別の意識を尋ねる設問などでは、望ましい結果が得られており、前回調査との差に有意性が認められるものも散見される。

近年は、大学でもデータサイエンティストの育成などに力を入れていく大きな流れがある。今年度から健康都市やまと総合計画がスタートし、これからどうやって健康の深化・成熟を図っていくかというテーマに対して、今後、各種調査で得られたデータを行政職員が分析することも必要ではないかと思う。

事務局 : ご指摘のとおり、市民が、重要度は高く、満足度が低いと感じている施策は、今後、適切な資源配分を考えなくてはならないと思っている。そのためには、これまで審議会の中で何度もご意見をいただいてきた通り、分野横断的な連携を視野に入れ、一つの分野だけでなく複数の分野にわたる効果が期待できる施策を検討していく必要があると考えている。

また、8次総では、数値目標を設定して進行管理を行っていくという手法を本格的に行ってきたわけだが、今後は得られたデータ分析についても、庁内で幅広く共有しながら進めていくべきと考えている。

会長 : 行政で担える内容も限界があるため、必要に応じて外部委託を活用するべきだろうが、プロセスを理解できるようリテラシーを得るための委託を検討していてもよいかもしれない。今後、健康都市やまと総合計画の後期基本計画の策定に取り掛かる際には、市民意識調査の結果分析まで行ったうえで、議論に入ることができるとよい。

以上、今回の任期の総合計画審議会委員が行うべき議題については、本日をもって審議が終了した。大和市がよりよいまちになるよう、委員各位には、これまで有意義な議論をいただき、また、事務局も意見のまとめなどに対応してもらい、会長として深く感謝申し上げます。

以 上